



た。今期の市政の最大課題といたしましては、人口増ということで定住、移住に向けた施策を積極的に進めまして、将来の大きな目標として人口 10 万人を目指すことになっております。そのためには、子育て支援の充実や満足度の向上に関し、千歳市としても大変重要な課題と受け止めております。本日の議題の 1 として、子ども子育て支援アンケート調査結果についてご報告をさせていただきますが、今回の調査結果におきまして、市としてもさらに力を入れていくべきことなどが見えてまいりました。また、議題 2 の幼児教育・保育の無償化につきまして、子ども子育て支援法改正案が閣議決定されまして、本年 10 月からの実施が決定されました。加えて、計画策定前ではありますが、来年度の本市の保育定員拡大について、皆さまにご審議いただきまして新たな計画に反映させてまいりたいと考えております。なお、本日が今期の最後の会議ということでございます。具体的な策定の審議につきましては、次期会議にバトンタッチをいたしまして、審議をしていただくこととなります。皆さまには、これまでの、熱心なご審議に御礼を申し上げますとともに、本日につきましても、忌憚のないご意見をいただければ幸いと存じますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 2 議事等

委員数 16 人中 15 人の出席につき、会議が定足数（委員の半数以上の出席）を満たしていることを確認。

会長より議事進行。

（会長）

皆様、こんにちは。お久しぶりでございます。今日は、お暑い中お集まりいただきありがとうございます。私たちの任期が 6 月 27 日までということで、そこまでは責任をもって私たちがここに関わってきたことを、よい方向へ向かっていると信じていきたいと思っております。最近、新聞を見ているとよく千歳市のことが出てきて子どものことだけではなくいろいろなところで、千歳という名前が目につくようになりました。それだけ、この市がいろいろな方面で注目されていると思うと同時に、10 月の保育料無償化になって、今のところ国では十分な基準を満たしていない施設にも 5 年間はお金を出すということを言っています。それに対し、石狩市は基準に満たない施設に対しては対象外とする方針であると書かれていました。千歳市は最後に同様の条例制定を検討したいと書いてあったのですが、今まで数の問題を保育に関しては言っておりましたが、質のことも本気でとらえていく必要があり、学生たちもいろいろな就職先がありますけど、本当にあなたのやっていることが正しく伝わるのか、保育の質のため子どもたちのため、保護者のためにどう使われていくのかを真剣に考えながら選んでいかないといけないねということを話しているところであります。今日のこ

の会議も、千歳にいる子どもたちと保護者の未来を見据えた会議であるようにと願っております。よろしくお願いいたします。

#### 議事 (1) 千歳市子ども・子育て支援アンケート調査結果について

(こども政策係長)

3月に開催しました、子ども・子育て会議において、本アンケート結果の主だった概要について、本業務の委託業者であります、サーベイリサーチセンターの説明のもとご説明させていただきました。本日は、冊子として製本されたものが納品されましたので、いち早く皆さまにお配りさせていただきました。アンケートの実施に際しましては、本会議の委員の皆さまから、参考となる貴重なご意見をいただいたことで、実りの多いアンケート調査となりました。アンケート調査の項目のみならず、回収方法などについても、効果的な方法をご提案いただいた結果、回収率も前回から4.1%アップした53.2%となり、市民の皆様の多くの声を聴くことができたと感じますとともに子育て世代の市民の皆様の関心の高さを改めて感じさせていただいた結果となりました。今後は、本アンケートの結果をもとに、今年度中に「第2期千歳市子ども・子育て支援事業計画」の策定を進めてまいります。

策定に関しては、次の任期の子ども・子育て会議の委員の皆さまから、ご意見をいただきながら、策定作業を進めてまいりますので、パブリックコメントなどで市民の皆様から、計画に関するご意見をいただくこともありますので、今後も市民という目線で様々なご意見をいただければと思います。説明は以上となります。

(会長)

ありがとうございます。ただいま担当の方から調査結果について説明がございました。このことにつきまして、何か、ご質問かご意見ございますでしょうか。後ほど、じっくり読んでいただいて、何かありましたらよろしくお願いいたします。

#### 議事 (2) 幼児教育・保育の無償化について

(こども政策課長) 資料2「幼児教育・保育の無償化」に基づき説明。

(会長)

OECD 諸国の中で、日本だけが無償化になっていないということで、日本が最後の国となりました。日本においては、保育所に入れない子どもたちがいる中で、施設が足りないことも問題にはあがっていると思います。今ご説明いただいたのは、国の施策であって千歳市の施策ではないとのことですのでよいでしょうか。

(久保田課長)

我々も、国の施策に基づいて無償化に取り組んでいくというかたちになります。

(会長)

これがベースとなっていきますが、これに、何か加えていくのか、それともこのままでいくのか。

(こども政策課長)

5月にやっと法令が通ったということで、今後国からも逐次具体的な手続き等も出てきますので、それら情報も踏まえた中で我々としてどのような方向をとっていかを検討していく必要がある。

(会長)

各施設の方々、保護者の方々も概要がつかめなくて困るといった意見もある中で、具体的な中身は出ずに進んでいるため、困っている状況ではないかと思いますが、この機会ですので、是非、なんでも聞いていただければと思います。今現在わかっていることはもちろん、今後、こういうことも検討するとよいと思うことがありましたらご意見いただけたらと思います。

(A 委員)

障害児の通園に関してですが、障害をもつお子さんを支えるため働けない方もいますし、0歳から2歳は非課税世帯だけではなく課税世帯も無償化の対象とし、通園を活用しやすいようになったらよいと思います。そのようなことを考える千歳市でいてほしいと思います。

(会長)

0歳から2歳の保育料は特に高い。

(B 委員)

一番年齢の低い層の子どもたちが有料であるというのは不公平に感じる。幼稚園の3歳から5歳までの無償化についてはとても前進したと思います。しかし、0歳から2歳のお子さんたちが無償化対象とならないことにより、お金を払ってでもあずけたい方と、お金を払うならあずけることはやめようと思う方が出てきてしまいます。お金を払うことに対し、躊躇した側が弊害を被ることとなりえます。

(会長)

国の方向性に対しての疑問ということですね。他にどなたかいないでしょうか。

(C 委員)

保育料について、4月から8月までと、9月からの保育料で、9月から保育料が変わったうえでの、10月から無償化になると思うのですが、2歳児(未就園児)においては、千歳市独自の就園奨励費が出ている。幼稚園の方でもそのように保護者へ説明していますが、こちらについては今後どのようになるのでしょうか。

(こども政策課長)

保育料の部分ですが、9月で一度見直して10月を迎えるパターンと、今、国におきまして、10月に一度に見直すパターンも認められることとなっております。どのようなやり方がよいかは、今後検討しまして皆さまに周知したいと思っております。

就園奨励費のご質問についてですが、プレ2歳については、国ではなく市独自の事業で行っております。制度設計が、国の就園奨励費の制度に基づいて行っておりますので、そちらの制度がなくなった中でどのようにやっていくかにつきましては、他市町村の動向も踏まえて検討させていただきたいと思っております。改めて、皆さまに周知の方をさせていただきたいと思っております。

(会長)

ありがとうございます。何かご意見はございませんでしょうか。

(D委員)

今、お母さんたちは、この無償化についてどうなるんだろうと思っている方が多いと思います。千歳市として策を練っている最中であることをどこかで発信した方がよいと思います。誰かの情報に惑わされていることもありますので、どこかで情報を発信した方がよいと思います。

(こども政策課長)

ご意見ありがとうございます。今のご意見を踏まえまして、適切な時期に皆さまに周知したいと考えております。

(会長)

10月より前に周知した方がよいのではないのでしょうか。6月に情報の一部でもよいので、何か発信できないかと思えます。

(こども政策課長)

広報や、事業者の方へ説明してそこから在園児の方へ説明してもらう等、いろいろな方法で周知できればよいと考えております。

(会長)

千歳市は、子育て情報を直結できるようなアプリはありますか。江別市ではあると聞きました。

(こども政策課長)

アプリはないです。

(会長)

正しい情報へアクセスできるような仕組みがあるとよいと思います。

(こども政策課長)

皆さまがわかるようなかたちで周知したいと思えます。

(E委員)

全く同じ意見だが、先に情報を提供してほしいです。事業所としても早めに情報を

いただきたいです。保護者の方からも給食費がどうなのか等いろいろと聞かれることがあります。早めに千歳市としてまとめていただいて、市としてこういうふうにやりますよとするのか、もしくは事業所にお任せするのか、国の方で食材等の金額が出ているので、この辺の金額なども今後どうなっていくのか事業所側としても心配ですし、保護者側の方もどれくらい実際金額がかかるのか心配しているところでもあります。費用に関する噂話だけが先行している。早めに情報提供いただくことが、保護者や事業所の安心へつなぐと考えます。

(会長)

良い噂が流れて、あとで違ったとなると、混乱させてしまう要因となりえます。

(こども政策課長)

ご意見ありがとうございます。来月、おそらく、国から自治体向けに、今後の事務手続きについてどうなるか説明会が行われると聞いています。それを踏まえて、検討して皆さまへお伝えできればと考えております。

(A 委員)

幼稚園のお子さんは満3歳になってからで、保育所のお子さんは、3歳の最初の4月となるので不公平感があると思います。

(会長)

幼稚園に入園できるのが満3歳からになっているのが要因ではないかと思います。

(こども政策課長)

教育的観点からと、保育的観点からの部分があると思いますが、これによって、今後の利用者の動向も左右されることだと思います。国が決めていることではありますが、我々も、情報等収集していきます。

(会長)

2歳児クラスに3月生まれと4月生まれがいたら、そこも保育園の中では確かに不公平感があります。他に何かありませんか。ありがとうございました。議事2はこれにて終わりとしてさせていただきたいと思います。

### 議事(3)「保育定員の拡大について」

千歳市子ども・子育て会議条例施行規則第2条第4号の規定により、決議に利害関係を有する6名の委員が一時退席した後、こども政策課長から説明。

(審議内容については、千歳市情報公開条例第9条(5)の規定に基づく非公開事項につき、省略。)

議事(3)について、事務局提案どおり可決となり審議終了。

#### 4. その他

(会長)

引き続きまして、4番目のその他をお願いします。

(こども政策係長)

新聞の記事を皆さまのお手元に配布してありますので、そちらの方を出してください。先日、本会議の会長をされています吾田委員の協力で藤女子大学の保育学科の学生に千歳市内の認定こども園等で働くことの魅力についてお伝えする機会をいただきました。当日は、藤女子大学のOBで今年4月1日から認定こども園つばさで保育士として働く菊地さんから、学生さんたちへ就職活動へのアドバイス、就職後の働き方にアドバイスを行うなどし、学生さんたちが千歳市に対し興味を持つきっかけづくりになり、大変有意義な時間となりました。本件につきまして、民報の5月21日号に載りましたので、記事のコピーを配布させていただきますので、ご覧ください。

(会長)

学生たちは、当初千歳市のことを全然知らなかったが、今回の説明を聞いて、自分の就職の選択肢に入れたいと言っていた学生が何名もいた。いろいろな市町村がたくさん大学に来て、うちに就職をと言ってくるのですが、教職員に言われても、学生たちの心に響かない場合が多い。今回の、千歳市の説明は押しつけがましいこともなく非常に学生たちへの印象もよかった。何人受けるかわからないが、少し役に立てればありがたいです。

(こども政策係長)

先ほど、D委員が言っていた、SNSに関するチラシを配ります。

(会長)

先ほど、皆さまがご退席されている間に、D委員からママからnet.の話をいただいたことから、その資料を皆さまにお配りします。

(こども政策係長)

フォロワー数の資料も配布させていただきます。

(D委員)

今年の4月からママからnet.を市民協働事業として行っています。千歳市は、他の市町村よりいろいろな事業を行っていると思いますが、従来の文字を通じた広報誌や新聞では、今のママへは届きにくい。今のママたちは、スマホから情報を得るので、SNSが有効です。

取材班は、子育て中のママたちで構成されています。様々な子育てに関する情報を各SNSを使用し発信していきます。取材班のママたちはSNSに詳しい方々ばかりです。ママたちのリラックスできる場の情報を提供したりします。文字ばかりだと情報が届きにくいので写真を入れるようにしています。ママの目線でママの役に立つ情報を提

供していきますので、よろしくをお願いします。

(会長)

この件につきまして特にご意見がないようなので、私の担当する議事は終わります。皆さまの任期がおわりますので、一言ずつ、何かいただければと思います。

(F 委員)

アレルギーのお子さんが大変増えています。務めている園では、エピペンを持っているお子さんが4人います。体重が満たないということでエピペンが処方できないお子さんが1人います。保育にも気を使います。別室で食べることとなります。学年によって時間が異なるためそれぞれに職員をつけなくてはいけない状況です。その子たちが食べ終わってクラスに戻る場合も、クラスの中に食べ残しがあってはいけないため、アレルギーになるものが落ちている可能性があるため、そのクラスの掃除が必要となります。3, 4人で4クラスの掃除をしてからではないと、アレルギーの子を戻すことができません。人手は足りない状況であり、毎日走り回っています。若い先生がエピペンを持っている生徒が自分のクラスにいるということでも重圧を抱えています。もっと人手がほしいです。昨年も、アナフィラキシーを起こしたお子さんがいましたが、幸い、お母さんの到着を待ってエピペンを使用しました。担任が、ショックで泣いていました。命を預かっているという現場があるので、就職にあたり、命にむかわなければならないこととなります。就職を躊躇してしまう人もいますが、補助金などを付けていただいて、安心して子どもたちを保育していける現場になるように願っています。

(会長)

看護師を保育現場にもおくようにと医者たちが言っていますが、北海道が最も保育園への看護師配置率が低くなっています。東京都は公立保育所を中心に分かっているだけで8割の園で看護師がいます。病院勤務の看護師の給料に比較すれば、保育園で勤務した場合の給料は低いですが、夜勤もないので看護師によっては保育園で務めてもよいといってくれるそうです。千歳市は看護職はいるのですか。

(こども福祉部長)

公立にはいます。

(会長)

看護師さんの給料はどうか。

(こども福祉部長)

正職員ではないので、給料体系は異なります。

(G 委員)

看護師は全国的にただでも足りないのに、保育園への就職となると難しいのではないのでしょうか。

(B 委員)

子ども・子育て会議を通じて、千歳市と一緒に子育て真っ最中の人についての政策等を考えられてとても勉強になった。これからも、この仕事を続けていきますが、これからもいろいろ勉強していきます。

(C 委員)

一般市民としては知りえないことがたくさんありました。そのため、子ども・子育て会議を通じて大変勉強になりました。今年から小学校に特別支援学級が2つ新設されたということで、学校での支援を必要とする子どもたちが増えているのかと思いますが、それ以前に、幼児期のうちに育てたい姿や資質能力を育てる、それにかかわる幼稚園、保育園、認定こども園の保育者への配慮や補助金に対する配慮はどうなっているのか気になるところです。ある部分には手厚く、私立の施設には薄くというのを感じていますので、幼児期の教育に関わる部分のご配慮をいただきたいと思っています。

(D 委員)

この会議に参加させていただいて、吾田会長から学生さんたちのことや千歳市以外の話も聞くことができました。この会議を楽しみに出席させていただきました。保育士を千歳市へということで、若い人が集う場所が、公園もたくさんあるのですが整備されていないと思います。ゴールデンウィークに夫と栗山公園に行きました。桜がきれいで昔から大好きな場所です。小さな子どもから高齢者まで楽しめる公園であります。0歳から生涯過ごせる公園で、このように過ごせる場所は千歳市にはないなと思いました。働き世代も、休日は札幌に遊びに行くのではなく、千歳市にお金を落としただけのような場所があればよいなと思っています。

(A 委員)

仕事の都合で休むことも多かったのですが、もう少し学校の方のことも会議でとりあげたかったです。日本は世界でも1クラスの人数が多いです。20人前後のクラスであれば、発達障害の子どもがいようが、先生方も見ることができると思います。40人学級とか35人学級とかサイズとしては大きすぎると思います。先生方も非現実的であるとおっしゃっています。できれば、千歳市も率先して少人数学級に取り組んでほしいです。社会に出れば、インクルーシブなので、小さい時から、いろいろなお子さんがいるのが当たり前なんだという社会で子どもたちが育っていくのが理想であります。できるだけ理想に近づけてくれるような千歳市であってほしいなと思っています。

(会長)

少人数学級を実現できない理由は、お金の問題ですかね。

(こども福祉部長)

大きいな目標に向かってそれぞれが調和していかないとうまくいかない問題である。

そのためには、予算の問題もありますけど、望ましい姿を考えて、全庁的に取り組んでいく必要があります。第7期総合計画が、令和3年度から始まりますので、その中でも学校支援、子育て支援の計画もありますので、全庁的な計画を私たちも声をあげていきます。

(H 委員)

この会議に出席して、国の取組や、市の取組を知ることができ自分自身とても有意義でした。

(会長)

ありがとうございます。

(G 委員)

アレルギーのことも看護師さんがきてくれると安心です。日本中の保育施設に看護師さんが配置されるといいなと考えております。今、インターンシップなどで卒園児が来てくれる機会が増えています。インターンシップでは、保育関係につきたいと言って来てくれる人がいます。現実として来てみると、こんなに大変なのというギャップがあって、そこら辺がうまくつながっていません。おまけに、保育士の仕事はきついとか給料が安いとか報道されていて、親御さんたちが、保育士は大変だからやめなさいと言って、保育士への道を閉ざしてしまうケースがあるようです。とても残念です。子どもたちは、子どもたちを育てたいとか、温かい保育士になりたいとか思いをもっているが、保育士とか幼児教育とか大変だからやめなさいと周りから言われて断念していく。そういった姿がとても残念でしかたがありません。ぜひ、保育の仕事も楽しんだってというような報道をしていただけたらと思います。明るい報道をして、保育士を育てていけるような報道をしていただきたいと思います。

(会長)

保護者や保育園の関係者等で千歳民報で子育てのコラムなどでリレートークするのはどうでしょうか。7・5・3で7割小学生、5割中学生、3割高校生で保育士の希望者がいるのですが、だいたい高校で考え直すよう言われます。少子化もあり、保育学科は人気がありません。保育士に対しポジティブキャンペーンを千歳から発信しましょう。SNSを活用してもよいと思います。

(E 委員)

この会議に参加させていただきありがとうございました。1点目は、幼・保・小の連携を実現させてほしいです。小さいころから連携できればと思います。2つ目については、先日、散歩の中で大きな事故があったかと思います。勇舞中学校のところに信号機がないので設置してほしいです。小学校にも危ないところもあると思うので、そういう箇所にも信号機をつけてほしいと思っています。

(会長)

貴重な意見ありがとうございます。今信号機つけないと後悔することになるかもし

れません。

(こども福祉部長)

この会議で出たことは、こども福祉部以外へも事務局の方から担当部局の方へ伝え  
ます。E委員からただいまあったことについては、再度伝えます。

(会長)

幼・保・小連携については、お金の問題ではなく今からでもはじめられることだ  
と思うので、それはなんらかのかたちではじめてほしいです。

(企画総務課長)

要望は毎年あげています。なかなか全道的な信号機の設置要望の中で、実際に信号  
機の付く件数は少ない実態となっています。

(会長)

幼保小連携の方はどうでしょうか。

(企画総務課長)

道の計画等も踏まえて、計画策定につなげたいと思っております。

(会長)

校長先生レベルでできることもあるはずだ。

(こども福祉部長)

幼保小連携といってもかなりフィールドが広がります。今の計画の中にもその辺  
はうたっておりましたので、次の計画についてもまた検討して盛りこめるものは盛り  
込みたいなと思います。

(I委員)

子育てやそれに伴う市の取組や政策の意見を取り入れるというのは、やはりあらた  
めて、子育てするなら千歳市だと思いました。いろいろ勉強になりました。ありがと  
うございました。

(会長)

ありがとうございました。

(J委員)

私もこの3年間でいろいろと勉強させていただいたこと、とてもよかったと思っ  
ています。小さい子から小学校、中学校、朝ごはんを食べてこれない子、精神的な問題  
を抱えている子、地域にはたくさんいます。地域のおばちゃんとして、そのような子  
たちをこれからどうやって支えていけるかを考えています。これからも、地域の活動  
をやっていければなと思います。ありがとうございました。

(会長)

ありがとうございました。

(K委員)

今まで自分たちが知らないことが結構ありました。今後、こういうサービスがある

と発信をしつつ、協力していければと思います。

(会長)

ありがとうございます。

(L 委員)

子ども・子育て会議の方に参加させていただいて、幼稚園、保育園、両者とも思っていることが一緒だったりと、参考になり勉強になりました。現場にいと、いろいろわからないことがあったりするの、こういう場に来るといろいろ情報が聞けるといことでよかったです。今後自分も頑張っていきますのでよろしく願いいたします。

(会長)

ありがとうございます。

(M 委員)

わからないことばかりですが、私も勉強させてもらいました。先ほども言ったのですが、この会議の影響もあってか、お母さんたちも子どもをあずけて働きに出やすい環境になったせいか、今年に入ってから20代後半から30代前半の若いお母さんたちに来ていただいて、これから千歳市がもっとバイタリティーあふれる街になるなど感じています。先日行われた、私の子どもの学童の保護者会の出席率が、今までにないほど高かったです。皆さん、情報がほしくて来ていたと思うので、小学生のお母さんにも情報を知る術、スマホなどであればいいと思いました。

(会長)

ありがとうございました。

(N 委員)

このような会議に参加できてとてもよい経験になりました。皆さんの話を聞いて勉強になりました。今後も千歳市を陰ながら応援しています。最後なので、一言言いたいことがあります。今、中学校で働いているのですが、不登校児が気になります。先ほどアンケート調査の結果をみて、お母さんの就労時間が年々早くなっている。そうすると、お母さんの方が朝先に出ていくので、今日は学校いかなくていいかとなってしまふこともあるのかなと思いました。その辺、どうにかできないのかなと思っています。

(会長)

ありがとうございます。ちょうど12時になりました。本当に皆さん、貴重なご意見、貴重な時間をさいていただいて、千歳市の子どもたちと保護者の皆さんのために、力を尽くして下さったことを感謝します。私も毎回ここにきて、勝手な不規則発言させていただいて、ここは切っというね、ということもありましたが、皆さんたちをとおして、皆さんたちが接していらっしゃるお子さんの姿、保護者の姿を見させていただきまして、勉強になることがたくさんありました。また、私も心入れ替えて、子

どもたちや保護者のために何が必要なのか、考えながら過ごしていきたいと思います。役所の皆さんから働き方改革が必要じゃないかなと思うくらい大変だと思いますが、ずっと千歳市を応援していきます。皆さん、6月27日までは責任がありますので、よろしく願います。本当に今日は皆さんありがとうございました。お気をつけてお帰りください。お疲れさまでした。

(こども政策係長)

それでは、これを持ちまして、令和元年度第1回千歳市子ども・子育て会議を閉会します。委員の方々には任期期間中の3年間お忙しい中、市に対し様々なご意見・アドバイス等をいただき市の子育て行政に多大な貢献をいただき改めて感謝申し上げます。

これからも、皆さまにおかれましては、ご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。ありがとうございました。本日は、ありがとうございました。

## 5 閉会 (12時3分、終了)